

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 事業所番号 (0190502872), 法人名 (株式会社リビングプラットフォームケア), 事業所名 (グループホームライブラリ月寒中央Ⅱ(風)), 所在地 (札幌市豊平区月寒東3条9丁目1番10号), 自己評価作成日 (令和6年1月13日(日)), 評価結果市町村受理日 (令和6年3月1日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190502872-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 評価機関名 (企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階), 訪問調査日 (令和6年2月15日(木))

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは和のテイストを取り入れ、入居者様が安心して暮らせるよう、家庭的な雰囲気を大切にしています。リビングを中心に台所、9つの個室、3つのトイレがあり、1つは車いす対応の広々としたトイレとなっております。浴槽には機械浴があり自力で歩行が出来ない方でも、安全に浴槽へ浸かる事が出来ます。家庭で過ごしていたような、包丁の音、美味しそうな食事の匂い、洗濯機の音、笑い声などの生活音が聞こえ、穏やかに過ごすことが出来ます。看護師による24時間オンコール対応、訪問診療、(内科、皮膚科、歯科)との連携を図り、入居者様の体調管理を行っています。お看取りの支援もっておりますので、終の棲家として最期まで安心して暮らすことができます。又職員が持ち回りで、虐待、拘束、感染、防災委員会を開催し、運営法人の研修と合わせて、月2回以上の研修会を開催し、職員の質の向上に繋げています。又パワハラ、セクハラ防止、職員のメンタルケアにも力を入れ、質の向上の底上げを図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、2019年10月1日に札幌市豊平区的美園地区から現住所に新築移転したグループホームである。建物の構造は、全3階建てで1階と2階は同法人のグループホームで、3階は会議室と職員の休憩室、看護師の事務所がある。当事業所は2階の2ユニットのグループホームで、地下鉄東豊線月寒中央駅から徒歩圏内で、近隣にスーパーやドラッグストアなどがある利便性のよい地区である。運営法人は、札幌市を中心に関東地区や東北地区に認知症高齢者グループホームや有料老人ホーム、居宅介護支援事業所などの介護事業、障がい者相談支援や就労支援B型事業所などの障がいサービス事業、保育事業など幅広く展開し、店頭公開したグループ会社で、培った経験を運営に活かしている。ホーム内は、エレベーターで2階に上がると、正面にユニットの玄関があり、左側には相談室を設置している。事務所を挟んで左右それぞれユニットが配置されており、台所は対面キッチンで、食堂やリビングが見渡せる環境になっている。居室は、単独の個室と8つの個室が繋がっている構造で、採光や風通しもよく、「和」のテイストを取り入れた落ち着いた室内環境である。地域との繋がりは深められていないが、働いている職員からは『仲良く協力し合える環境』との声もあり、働きやすい職場環境であるため、これからは期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Level (1-4), and Evaluation (O/C). Rows 56-62 cover various service outcomes like staff understanding, user safety, and staff satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム、休憩室に掲示し、毎朝の朝礼で理念の唱和を行い、共有、実施に繋げている	経営理念である『感謝と創造』を基に事業所理念、行動理念、行動指針をスタッフルームに掲示し、毎日の朝礼にて両ユニット職員と一緒に唱和することでスタッフ間で共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナが5類になったが、日常的に交流する所まで至っていない。町内会長も運営推進会議に出席できていないが、文章は郵送しており、散歩のときなど「挨拶」はしっかり行き地域との繋がりが切れないよう心がけている	町内会へは未加入で町内会とのつながりはなく、近隣もアパートやスーパーであるため、地域の活動状況を把握できていない。同グループの障害施設の職員が事業所前の除雪をしてくれている。	早期に町内会長とコンタクトを取り、町内会への加入を進めるとともに、地域の活動に参加するなどして、事業所自体が地域の一人として日常的に交流できるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資源回収の協力程度に留まっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、参加できないご家族様からは出欠の案内とともに、ご意見を頂き会議で意見交換や話し合いを行っている又ご家族に運営推進会議の議事録を送付している	コロナが5類になったことで、対面での運営推進会議を2ヶ月に1回の頻度で開催している。町内会からの出席はないが、地域包括支援センターの職員や利用者家族が参加し、取組状況等の報告をしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ電話、メールで様々な相談を行っている、後見人制度では保護課と連携をとり進めている。又メールで市の担当者より、密に情報共有を行っている	札幌市の担当者とメールにて連絡し状況報告をしている。生活保護受給者5名の内2名に身寄りがない方がいるため、成年後見制度の活用について相談するなどして、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修、外部研修を行い、全職員に資料を配布し意見を出してもらいなど、周知を図っている。又身体拘束廃止委員会を定期的に開始している。	毎月身体拘束抑制廃止委員会を開催し、毎月のテーマを決めてその内容について検討している。また、内部研修は年間計画に沿って身体拘束に関する研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待、拘束委員会による研修会を定期的に行い、周知をし、職員の「これは？」「もしかして？」を疑問を話し合い、虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様が高齢又は死亡し2名の方が後見人制度を申請中、職員は内部研修を行っているが、個々の必要性を関係者と話し合い、活用できるとこまで至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には前もって、ご本人様、ご家族様に説明を行い、不安や疑問点が残らないよう、十分な説明を行っている。又日頃から、お手紙や電話で詳細な説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは日頃の会話の中からご家族様は、面会や電話、運営推進会議等意見、要望など会議で話し合い、運営に反映出来るよう、職員間で情報の共有を図っている	月1回開催のケア会議にて、電話やメール、面会の際に利用者家族から意見や要望を聞き取り、その内容について話し合い、事業所内での共有はもちろん、グループ内他事業所とも情報共有し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や3ヶ月に1回の個人面談などで職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている	日々の業務の中で意見や提案を聞くことが多いが、毎月のケア会議で検討したり、全職員対象の個人面談にて意見を聞く機会を設け反映させている。また、ユニット職員からは『仲良く協力し合える環境』という意見もヒヤリングでき	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	3ヶ月に1回の個人面談、自己評価表等で個々の努力や、実績、勤務状況を把握し、給与水準(昇給)労働時間、やりがいなど各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修は研修テーマに沿って動画で視聴でき、テーマ以外にも様々な研修が動画で視聴することが出来る、新人研修、初任者、実践者研修、研修委員会による研修など、ステップアップに繋がるよう進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	今年の秋には、5GH合同で運動会を実施 会議や日頃の情報共有により、サービスの質の向上に努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する段階から、ご本人の要望、希望、困っていること等に耳を傾け安心を確保できるよう関係作りに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階から、ご家族様が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前段階より、ご家族様、ご本人が必要としているサービスを見極めほかのサービス利用も含めた対応を行っている、入居を急いでいるご家族様には他施設の空き情報を伝える等対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様本位で、出来るところは職員と一緒にいき、介護される一方とならないよう暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便りや、ケアプラン作成時、面会時など些細なことでも、ご家族様と情報の共有を行い、面談や電話連絡、メールでのやり取りなどで、ともに本人を支えていく関係性を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会やご家族様との外出も行き、コロナがらみになり、サーカスを見に出かけ遠方のお孫さんと外出したり、友達からの電話やお手紙など馴染みの場所や関係が途切れない支援に努めている	面会は、事前予約にて相談室で直接面会ができるようになっている。また、外出外泊も可能で、訪問診療や訪問歯科、理美容業者も来訪され、馴染みに人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を把握し、一人一人が孤立しない、関わりあい、支えあえるような支援に努めている。席の配慮や職員が間に入り、関係が悪化しないよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、他施設転居など契約が終了しても本人、ご家族様の経過をフォローし、相談や支援に努めている。退去するにあたり成年後見人の相談を受け、フォローするなど支援に努めた		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス、日々の会話、記録、アセスメント等で、思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に近づけるよう、カンファレンスで話し合いを行っている	日々の暮らしの中で、利用者から思いや意見を聞き取り、カンファレンス等で情報共有している。家族の意向確認は、ケアプラン更新のタイミングで意見を聞き取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃の会話の中、ご家族様との面談 受診同行の時など色々な場面でお聞きし 職員とも情報共有が図れるよう、カンファ レンスなどで伝えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の 現状の把握に努めている	日々の様子観察、支援の中で、一人ひとり の1日の過ごし方、心身状態、有する力等の 現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの 意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の要望を把握し、アセスメント カンファレンスを行い、主治医、看護師、歯科 リハビリ等の意見、アイデアを反映し、現状に 即したケアプランを作成している。	計画作成者が中心となって本人及び家族の意 向を反映しケアプランを作成している。iPadを活用してサービス内容についての実施状況を確認したり、カンファレンスにて各専門職が意見を 募るなどして、現状に即した介護計画を作成 している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなど記録に記入し、職員 間で情報を共有、実践や介護計画の見直しに 活かしている。カンファレンスの時などに、記録 にはその時々様子、状況なども記入するよ う、話し合いを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応 して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援や サービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応するよう、外部の リハビリ、訪問美容室など個々に合わせた サービスを取り組んでいるが、多機能に 取り組むまで至っていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握までは至っていないが、 散歩や買い物など出来るだけ、地域に 出向いて行けるよう、支援を行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	メインの医療機関は訪問診療に切り替えているが、専門医などは継続して受診できるよう、支援を行っている。	かかりつけ医については、契約時に本人及び 家族の希望を聞いて継続するなどしている。必要に応じて他科受診するなどの支援もしている。皮膚科や歯科の往診もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間のオンコールをはじめ、日々、些細な 事でも相談が行える関係性が築けている 又主治医との関係性も良く、電話やメールでのやり取りも、気軽に行えている為 適切な指示や緊急時の受診もスムーズに行えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはフェースシートや看護師からの情報、主治医からの提供書など、情報の提供を行っている、又入院時には必ず長期入院の弊害を伝え、早期退院をお願いしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	サービス開始全の面談の段階よりお看取りが行える事伝える、又ご家族様より相談されることもあり、最後の最後まで気持ちが揺らいでも良いこと、お看取りを決めても、途中で延命を希望しても良いことお看取りで、ホームで出来ることなど伝えご家族様が安心して頂けるよう努めている	終末期の意向については、契約時に説明し同意を得ている。また、重度化した際には、改めてかかりつけ医と共に、ご家族の意向を確認するなどして、かかりつけ医と協力しながら支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止、緊急時の対応の研修、訓練を定期的に行っている、職員は落ち着いて対応が行えている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防立ち合い訓練、自主訓練等、行っている、地域との協力体制を築くまでには至っていない	消防立ち合いのもと、日中及び夜間想定で年2回の防災訓練を実施し、自然災害に関する避難訓練は他事業所と合同で実施している。備蓄管理は会社の担当者が行なっているが、事業所内に保管できる場所が少なく備蓄管理に	BCPが未完成であるため、早期に作成するとともに、備蓄の保管場所や管理についても検討し、BCPに基づいた避難訓練の実施ができるよう期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の様子や、生活歴から一人一人の性格等を把握し、人格を尊重し、誇りやプライバシーを尊重する言葉かけや対応を心がけている	職員同士の関係性が良好で、リーダーを中心にお互い注意し合える環境がある。また、内部研修にて人格尊重やプライバシーについての研修を開催し、適切な言葉かけができるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の意思や自己決定が行えるよう、言葉かけに配慮し働きかけを行っている。嫌がる様子が見られた場合は時間を置く、中止するなど本人の意思決定を尊重できるよう支している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って生活をして頂いている。食事や体操の時間ケアプランに沿った支援などあるが、気分や要望に沿って対応を行っている又「～やりたい～に行きた」等の要望にも出来るだけ沿うように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には本人の好きな服を選んで頂けるよう支援している。カットなども本人の要望を確認し対応を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に調理や盛り付け、後片付けを行なっている。一人ひとりの力を見極め、茶碗洗い、盛り付け、テーブルふきなど、それぞれが力を発揮できるよう努めている、又状態により提の工夫を行っている	行事や誕生日などのイベントの際は、食べたいものを聞き、可能な方は一緒に近くのスーパーに買い出しに行っている。また、出来る限り自分で食べることができるよう軽い食器に変更したり、一緒に調理したりするなどして、1人ひと	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は状態に合わせて提供している、水分、食事量のチェックを行い、不足がないよう、飲み物の種類を変えたり、工夫を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、舌磨きを行っている 又定期的に歯科衛生士、必要であれば歯科医師の往診を受け、指導を頂いている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけトイレでの排せつ、失敗を減らせるよう、チェックシートを活用し、声掛け、誘導を行っている、排便は自立の方は確認を行っているが、看護師にお腹の張り具合なども確認してもっている。	排泄パターンは個々に排泄表にて把握して対応している。全介助の方が3名いるが、日中の時間帯で可能な時は二人介助にて対応するなど、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や運動をヨーグルトの提供を行い便秘にならないよう工夫を行っているがそれでも便秘になる入居者様は、主治医、看護師へ相談し対応を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	希望の時間や曜日に浴えない事もあるが入浴の前段階から関わりを持ち、入浴剤を選んでいただいている。気分により曜日の変更も臨機応変に対応を行っている	曜日や時間を決めずに基本週2回の入浴を実施している。一般浴槽に入れる方は隣のユニットで入浴するなど、それぞれのユニット職員が協力し合い、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、気分、その時々状態により自由に過ごして頂いている、ただ日中眠り過ぎないように、レクリエーションや体操などの働きかけを行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容、副作用などの把握を職員間で共有し、状態変化が見られたときは、主治医看護師に相談をおこなっている。又服薬チェック表を使用し、ダブルチェック、名前の読み上げ確認等誤薬予防を行い、安全に服薬できるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、日々の会話、状態観察を行い、職員間で情報の共有を行い張り合いや、喜びのある日々を過ごせるよう支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のスーパー、散歩、公園での夕涼みドライブなどコロナが5類になり、昨年より外に出る機会が増えた、又ご家族様と外出する機会も増えた。3階のテラスでお茶会や野菜、お花を植え楽しめるよう支援を行う	コロナが5類になったこともあり、近くのスーパーや公園、夕方に車でドライブするなどして、気分転換が図れるようにしている。また、家族と外出することも可能なため、本人の希望を把握し家族と協力しながら出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預かっていないが、買い物時は金銭が使用できるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に行っている又ご家族様かハガキや手紙が届いたときは、読み上げ等の支援を行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースでは、混乱を招かないよう、刺激がないよう配慮している。リビングでは季節感が感じられるよう、入居者様とその月に沿った飾りつけを行い、季節を感じられるよう工夫を行っている。	玄関や居間などの共用空間は、静かで落ち着いた雰囲気、入居者一人ひとりが穏やかに過ごせるような環境を整備している。また、季節を感じられるように、入居者と一緒に制作した装飾や作品を飾ったりして、生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が楽しく過ごせるよう、気の合う合わないを見極め、座席の配置を考えている又職員が間に入ることで、楽しく過ごせるよう努めている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は馴染みの物を持ち込んで頂き、本人が居心地よく過ごせるよう支援している	ベッドとクローゼットが備え付けではあるが、入居者ごとに馴染みのある家具や備品を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をするなどして、個々に落ち着ける居室空間作りをされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、自立した生活が送れるよう工夫している。		